







令和5年度 学校評価について アンケート結果「知」




GOOD BAD 表示について
 第一回と第二回の調査で約3%以内の差はNEXT  表示とした。
 第一回と第二回の調査で約3%以上の差のあるものを   GOOD BADの表示とした。
 評価について参考に令和4年度第二回の調査数値を表示した。またコメントは第一回と第二回を比較したものである。

第1回（7月）		第2回（2月）		評価			
【知】 1 読む：教科書と副読本を読み比べ（比べ読み）ができる。						令和5年2月：81.4%	
○できる	38.3%	76.0%	73.2%	○できる	35.8%	 NEXT 	前期と比べほぼ横ばい状態である。今後も継続して身につけて欲しい力である。
○ほぼできる	37.7%			○ほぼできる	37.4%		
×あまりできない	18.7%	24.0%	26.8%	×あまりできない	19.0%		
×できない	5.4%			×できない	7.8%		
【知】 2 書く：体験したこと感想を200字以上で表現できる。						令和5年2月：84.4%	
○できる	40.9%	79.4%	75.7%	○できる	39.0%	 BAD 	課題の論文や作文、就職活動の履歴書の文章作成に必要な力であるため、「できる」数値を上げることが今後の課題である。誤字、句読点、文章構成も改善・向上が課題である。
○ほぼできる	38.5%			○ほぼできる	36.7%		
×あまりできない	15.7%	20.6%	24.3%	×あまりできない	18.6%		
×できない	4.9%			×できない	5.7%		
【知】 3 文字：課題、提出物、考査などにおいて、丁寧に正確な文字を書くことができる。						令和5年2月：81.3%	
○できる	32.3%	75.0%	74.5%	○できる	29.8%	 NEXT 	今回は課題・提出物・考査など具体的な観点を取り入れているが、実状は数値とは異なっているように感じられる。今後も授業等を通じて各教科・HR担任等において継続した指導が必要である。
○ほぼできる	42.7%			○ほぼできる	44.7%		
×あまりできない	20.0%	25.0%	25.5%	×あまりできない	19.7%		
×できない	5.0%			×できない	5.8%		
【知】 4 表現：自分の考えを他者へ正確に伝えることができる。						令和5年2月：78.6%	
○できる	28.2%	74.0%	71.4%	○できる	26.4%	 BAD 	これからは各教科ともに「主体的・対話的で深い学び」を推進していくため、協力して取り組みたい。
○ほぼできる	45.8%			○ほぼできる	45.0%		
×あまりできない	23.2%	26.0%	28.6%	×あまりできない	23.8%		
×できない	2.8%			×できない	4.8%		
【知】 5 パソコン：ワード、エクセル、パワーポイント等を使って作成や発表ができる。						令和5年2月：84.6%	
○できる	28.4%	65.1%	69.7%	○できる	28.4%	 GOOD 	各教科による「主体的・対話的で深い学び」の取り組みに加え、授業でパソコンを利用する機会が増えて使い慣れたため向上したと思われ、さらに向上できると考えられる。またBYODによる各教科・HRでの取り組みは大きい。
○ほぼできる	36.7%			○ほぼできる	41.3%		
×あまりできない	29.0%	35.0%	30.3%	×あまりできない	23.2%		
×できない	6.0%			×できない	7.1%		
【知】 6 資格：1年間で3つ以上の資格取得を計画し、挑戦する。						令和5年2月：50.6%	
○できる	36.5%	75.6%	70.2%	○できる	35.8%	 BAD 	学年により3つ以上取得できない状況を鑑み、昨年までは3つの資格取得で質問したが、今回より1つにした。資格試験の合否が結果に結びついていると思われるが、資格は社会に出て大きな武器になることを理解させ今後も意欲的に取り組ませていきたい。
○ほぼできる	39.1%			○ほぼできる	34.4%		
×あまりできない	17.9%	24.4%	29.8%	×あまりできない	19.3%		
×できない	6.5%			×できない	10.5%		
【知】 7 判断：スマホに依存しない。（1時間減 グレースケール 調べ学習に活用）						令和5年2月：50.9%	
○できる	23.2%	50.8%	48.6%	○できる	20.6%	 NEXT 	これは本校に限らず、現代社会の高校生の課題でもある。使用時間の削減よりも、使用目的の質の向上にフォーカスしていく必要性がある。
○ほぼできる	27.6%			○ほぼできる	28.0%		
×あまりできない	28.0%	49.2%	51.4%	×あまりできない	28.0%		
×できない	21.2%			×できない	23.4%		
【知】 8 姿勢：家庭学習をする。（課題 レポート 復習）						令和5年2月：61.4%	
○できる	22.4%	57.1%	55.7%	○できる	25.0%	 NEXT 	確かな学力の向上を目指すため、今後も継続していく課題である。生徒の学習への意欲・関心も高くなってきており、家庭学習の必要性を訴える良い機会ではないかと考えられる。
○ほぼできる	34.7%			○ほぼできる	30.7%		
×あまりできない	28.8%	42.9%	44.3%	×あまりできない	27.3%		
×できない	14.1%			×できない	17.0%		

知

令和5年度 学校評価について アンケート結果「徳」

徳	【徳】9 人間関係づくり：挨拶や、正しく丁寧な言葉遣い、且つ、生徒同士で確認できる。					令和5年2月：87.3%		
	○できる	48.0%	88.5%	85.8%	43.6%	○できる	 BAD 	尼工の強みの1つであるため、高い数値であるからといって決して安心はできない。特に粗暴・乱暴な言葉遣いも目立ってきている。就職専門学校として力を入れていく必要がある。
	○ほぼできる	40.5%			42.2%	○ほぼできる		
	×あまりできない	9.5%	11.5%	14.2%	10.8%	×あまりできない		
	×できない	2.0%			3.4%	×できない		
	【徳】10 コミュニケーション：思いやりのある言動・行動ができ、感謝の表現ができる。					令和5年2月：88.8%		
	○できる	47.0%	90.1%	90.8%	47.7%	○できる	 NEXT 	社会人即戦力の人材として必要な、コミュニケーション能力の育成として重点課題とした。良い結果ではあるが、感謝や反省の気持ちの表現は今後の課題である。
	○ほぼできる	43.1%			43.1%	○ほぼできる		
	×あまりできない	8.3%	9.9%	9.2%	8.1%	×あまりできない		
	×できない	0.8%			1.1%	×できない		
	【徳】11 対人関係：自分とは異なる立場の人と共生するのに必要な人権意識を身につける。					令和5年2月：91.6%		
	○できる	45.0%	89.4%	92.0%	45.0%	○できる	 GOOD 	上の課題と共通している。相手のとらえかたを考えずに周囲を不愉快にしていることもある。男子生徒が多く明るく活力はあるが、歯止めが利かないところもあるため、適切な指導が必要である。数値的には悪くないが、特にSNSと関連させて継続的な指導が必要である。
	○ほぼできる	44.4%			47.0%	○ほぼできる		
	×あまりできない	9.3%	10.6%	8.0%	6.9%	×あまりできない		
	×できない	1.3%			1.1%	×できない		
	【徳】12 基本的な生活習慣：自主的に5分前に行動を起こし整列し、着席・点呼ができる。					令和5年2月：85.3%		
○できる	43.5%	82.6%	82.8%	40.8%	○できる	 NEXT 	まだまだ課題はあるが、令和4年度並みに概ね良好である。課題は、クラス・授業によって指示がないと整列・点呼ができない、正副委員長・各委員等がリーダーシップを発揮できない、整列された集合隊形の完成ができない等、主体性がワンランク上の課題である。	
○ほぼできる	39.1%			42.0%	○ほぼできる			
×あまりできない	14.7%	17.4%	17.2%	14.0%	×あまりできない			
×できない	2.7%			3.2%	×できない			
【徳】13 信用・信頼：期日までに、決められた提出物や課題の期限を守ることができる。					令和5年2月：90.7%			
○できる	45.2%	83.3%	83.5%	40.6%	○できる	 NEXT 	高い達成率であるが令和4年度より低下している。本校は就職専門学校であるため、期限・時間厳守については特に重点をおいている。一部の生徒については、複数教科未提出・期限遅れや、毎回未提出など問題点もあるが、概ね意欲的に取り組んでいる。	
○ほぼできる	38.1%			42.9%	○ほぼできる			
×あまりできない	12.3%	16.7%	16.5%	12.6%	×あまりできない			
×できない	4.4%			3.9%	×できない			
【徳】14 ビジョン・自己実現：1年の時から自身の進路・キャリアについて具体的に考える。					令和5年2月：72.5%			
○できる	28.4%	63.9%	66.9%	26.8%	○できる	 GOOD 	3年間を通じた「キャリア教育」の推進が必要である。「尼工だから就職する」のではなく、「自分が就きたい企業」「やりたい仕事」等、3年間を通じてキャリアサポートすると改善できる課題である。	
○ほぼできる	35.5%			40.1%	○ほぼできる			
×あまりできない	29.2%	36.1%	23.1%	26.6%	×あまりできない			
×できない	6.9%			6.5%	×できない			
【徳】15 集団活動：学校の清掃活動を丁寧に取り組み、生徒同士でチェックできる。					令和5年2月：89.2%			
○できる	37.9%	89.1%	86.1%	39.5%	○できる	 BAD 	自主的・主体的な清掃活動は重要であるため厳しく評価した。本校は比較的、清掃活動は真面目に取り組んでいるため、高い数値ではあるが、次年度よりゴミの分別等も徹底していくことが望まれているので、もう少し意識を高くもって欲しい。教室内のゴミやゴミ箱のゴミの処理も課題である。	
○ほぼできる	51.2%			46.6%	○ほぼできる			
×あまりできない	8.9%	10.9%	13.9%	11.7%	×あまりできない			
×できない	2.0%			2.2%	×できない			
【徳】16 規範意識：端正な頭髪・制服をきちんと着こなす。					令和5年2月：90.3%			
○できる	54.6%	90.5%	91.3%	50.9%	○できる	 NEXT 	制服の着こなすという観点で見るとこの数値であるが、頭髪は規則を過大解釈する生徒が多く、自由化が進んだ。冬の防寒着も華美な生徒や、ブレザーを着用しない生徒が多いので、この自己評価は正確性に欠けるところもある。	
○ほぼできる	35.9%			40.4%	○ほぼできる			
×あまりできない	7.5%	9.5%	8.7%	6.9%	×あまりできない			
×できない	2.0%			1.8%	×できない			

令和5年度 学校評価について アンケート結果「体」

【体】17 社会生活：ボランティア精神をもって校内、外の活動に参加できる。						令和5年2月：41.9%	
○できる	28.4%	60.1%	58.3%	25.7%	○できる	 NEXT 	令和2年度～3年度はコロナ禍による校内行事や地域活動の規模縮小・中止等により、昨年の41.9%は妥当な結果であった。しかし、今年度からは5類移行に伴い変化しつつある社会情勢の中で、本校も「地域連携行事」「ふるさと意識を醸成する教育活動」などの推進が求められる。これにより成果は右肩上がりであるので、継続して向上させたい。
○ほぼできる	31.7%			32.6%	○ほぼできる		
×あまりできない	27.6%	39.9%	41.7%	23.6%	×あまりできない		
×できない	12.3%			18.1%	×できない		
【体】18 豊かなスポーツライフ：部活動も含め、週に5日、1時間程度の運動をする。						令和5年2月：66.3%	
○できる	43.6%	70.1%	69.0%	42.4%	○できる	 NEXT 	少しずつではあるがコロナ禍の影響も踏まえ、成果は現れているといえる。ただし、成長著しい高校生の運動頻度としては決して高い数値ではない。部活動の活性化、入部率の向上のため、生徒指導部を中心に学校全体で取り組んでいくべき課題である。
○ほぼできる	26.5%			26.6%	○ほぼできる		
×あまりできない	21.1%	29.9%	31.0%	20.6%	×あまりできない		
×できない	8.8%			10.4%	×できない		
【体】19 食生活：自分の食生活を管理している。※朝食摂取、無理なダイエット						令和5年2月：81.3%	
○できる	54.8%	81.4%	80.2%	50.9%	○できる	 NEXT 	今後も引き続き継続課題とする。朝食の欠食、無理なダイエットなど、運動・休養・食事といった規則正しい生活習慣の3本柱であるため90%を上回る成果を求めたい。
○ほぼできる	26.6%			29.3%	○ほぼできる		
×あまりできない	12.7%	18.6%	19.8%	13.8%	×あまりできない		
×できない	6.0%			6.0%	×できない		
【体】20 休養の確保：規則正しい就寝・起床時間、また、質の高い睡眠を確保できている。						令和5年2月：67.4%	
○できる	31.7%	62.5%	64.3%	34.1%	○できる	 NEXT 	ほぼ横ばい状態であるが、今後も引き続き継続課題とする。運動・休養・食事といった規則正しい生活習慣の3本柱であるため90%を上回る成果を求めたい。特に睡眠時間・質の高い睡眠と課題7のスマホ依存、課題8の家庭学習は深く関連しているため、計画的な生活パターンの確立が課題である。
○ほぼできる	30.8%			30.2%	○ほぼできる		
×あまりできない	27.4%	37.5%	35.7%	22.2%	×あまりできない		
×できない	10.1%			13.5%	×できない		
【体】21 救急救命：AED、心肺蘇生法について対応することができる。						令和5年2月：52.1%	
○できる	20.0%	52.7%	56.9%	22.3%	○できる	 GOOD 	上昇傾向にある。本校のAEDの設置場所、心肺蘇生法等については保健体育科「保健」の授業や、職員研修で情報共有はなされている。しかし、非日常的な内容であるため、関心は低い。生命に関わる課題であるが、全校生の半数しか知識・技能がない現状は、次年度の重要課題かつ継続して取り組む必要がある。
○ほぼできる	32.7%			34.6%	○ほぼできる		
×あまりできない	32.1%	47.3%	43.1%	28.0%	×あまりできない		
×できない	15.1%			15.1%	×できない		
【体】22 安全の確保：熱中症予防について、生徒同士で水分補給・休憩・RICE処置ができる。						令和5年2月：66.2%	
○できる	27.4%	68.5%	70.6%	26.6%	○できる	 NEXT 	やや上昇傾向にある。コロナ禍の部活動においては各部活動がガイドラインを守り、規定内の練習時間・練習頻度であるため、熱中症発症率が減っていると考えられる。また、感染症の関心が高くなり、次第に意識が低下する可能性もある。しかし、地球規模で起こる環境問題の影響は今後も続くため、引き続き注視の必要がある。
○ほぼできる	41.1%			44.0%	○ほぼできる		
×あまりできない	23.4%	31.5%	39.4%	20.9%	×あまりできない		
×できない	8.1%			8.5%	×できない		
【体】23 感染症等予防：感染予防について正しい知識を持ち、実践できる。						令和5年2月：90.1%	
○できる	41.9%	84.0%	85.7%	38.3%	○できる	 NEXT 	令和4年度から低下状態である。5類移行により危機意識が遠のいているかもしれないが、コロナ禍を教訓として引き続き注視したい。
○ほぼできる	42.1%			47.4%	○ほぼできる		
×あまりできない	12.5%	16.0%	14.3%	10.1%	×あまりできない		
×できない	3.5%			4.2%	×できない		
【体】24 粘り強さ：授業中は、集中して活動できる。						令和5年2月：74.6%	
○できる	30.2%	75.0%	75.1%	33.2%	○できる	 NEXT 	今年度はほぼ横ばい状態であるが、実習や実技系の授業については真面目で意欲的であるが、座学の授業では、居眠りしている生徒もいる。
○ほぼできる	44.8%			41.9%	○ほぼできる		
×あまりできない	19.2%	25.0%	24.9%	19.3%	×あまりできない		
×できない	5.8%			5.6%	×できない		
【体】25 危機管理能力：作業の安全を生徒同士で確認し、精度の高い操作、態度を身につける。						令和5年2月：88.2%	
○できる	48.6%	90.5%	90.0%	48.8%	○できる	 NEXT 	作業の安全や精度の向上を目指すため、「危機管理能力」という文言を加えた。しかし、昨年度や第1回よりもやや低下傾向が見られた。上の課題と関連させて、成果を上げるように努める必要がある。
○ほぼできる	41.9%			41.2%	○ほぼできる		
×あまりできない	8.6%	9.5%	10.0%	8.5%	×あまりできない		
×できない	0.9%			1.5%	×できない		

体